

事務事業チェックシート

事務事業No 688 事業名 真舟芸術振興基金事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	2	芸術・文化の振興
取組方針	1	芸術・文化活動の推進

事業種別	継続		
事業期間	～		
事業実施の根拠法令	和歌山市真舟芸術振興基金条例		
関連個別計画			
担当課・担当課長・Tel	文化振興課	坂井 正二	435-1194
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		文化スポーツ費	
	目		文化振興費	
	大事業		文化振興事業	
	中事業		真舟芸術振興基金事業	

1 事業内容

事業目的	「誰・何」をどういう状態にするための事業か 若手芸術家の育成や伝統文化の継承を目的とする。		全体事業概要 ・書道講習会事業 著名な書道家の指導により、「かな書道」を正しく理解し、表現力や創造力を養うことを目的とした講習会を開催し、その成果を展覧会の形で発表する事業 ・若手芸術家育成事業 和歌山市の芸術文化振興と若手芸術家の育成を図る事業 ・子ども和太鼓ワークショップ事業 子ども達に和太鼓の鑑賞や実演する機会を提供することで、日本の伝統文化の継承等を図る事業		
	事業内容	平成27年度 書道講習会 夏期 8月15日～16日 受講者数 29名 秋期 11月15日 受講者数 22名 書道展覧会 12月23日～1月7日 和太鼓ワークショップ 市内小学校5校にて実施 参加者 365名 若手芸術家支援事業 2名	平成28年度 書道講習会 夏期 8月13日～14日 受講者数 38名 秋期 11月13日 受講者数 10名 書道展覧会 和太鼓ワークショップ 市内小学校5校にて実施 参加者 357名 若手芸術家支援事業 2名	平成29年度 書道講習会 夏期 8月12日～13日 受講者数 27名 秋期 11月12日 受講者数 6名 和太鼓ワークショップ 市内小学校5校実施 参加者 323名 若手芸術家支援事業 2名	平成30年度 書道講習会 夏期 8月18日～19日 秋期 11月11日 和太鼓ワークショップ 市内小学校5校実施予定 参加者 323名 若手芸術家支援事業2名予定

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	8,382	7,223	5,523	4,478	8,141	6,338	7,796	7,796	7,796	
伸び率(%)	-	-	▲34.1%	▲38.0%	47.4%	41.5%	▲4.2%	▲100.0%		0.0%
人件費	正規職員	4,003	4,303	4,303	5,178	6,132	6,681	4,698		
	正規職員以外	936	1,042	1,042	1,052	1,262	261	435		
	小計	4,939	5,345	5,345	6,230	7,394	6,942	5,133		
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	8,382	7,202	5,523	4,478	8,141	6,338	7,796	7,796	7,796	
一般財源(税等)		21								
所要人数(人)	正規職員	0.54	0.57	0.57	0.65	0.77	0.84	0.77		
	正規職員以外	0.48	0.48	0.48	0.48	0.57	0.11	0.57		
主な予算内訳	非常勤報酬 1,764千円 補助金 800千円 報償金 1,300千円 子ども和太鼓ワークショップ開催委託料 1,390千円 若手芸術家育成									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
講習会等開催数	回	回	目標値	7	7	7	7	
			実績値	7	7	7		
			達成度(%)	100.0%	100.0%	100.0%		
講習会等参加者数	人	人	目標値	400	400	400	400	
			実績値	416	405	356		
			達成度(%)	104.0%	101.2%	89.0%		
成果指標	人	人	目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>和歌山市出身の書道家、故山本真舟氏の遺志により作られた「真舟基金」を活用し、平成18年度にスタートした事業である。各事業において参加者において概ね好評を得ており、一定の成果が表れているものの、今後も引き続き更なる事業の充実に努めなければならない。</p>
見直し・改善内容	<p>書道講習会事業については、受講者の増加を目指す。また、講習会の成果発表の場としての展覧会を開催し、本市におけるかな書道の更なる振興を目標とする。</p> <p>子ども和太鼓ワークショップ事業については、市内小学校を一巡することを目指し、多く子どもたちに古来から伝わる伝統文化に触れる機会の提供に繋げる。</p> <p>若手芸術家育成事業については、対象者の知名度や集客力の向上ができるよう、更なる広報の強化と芸術家の協力、競演等を推進していくとともに、市民に優れた芸術文化に触れる機会を広く提供することを目指す。</p>